



1. ハザードマップの見方

ハザードマップは、災害リスクや避難場所等の情報を示しています。それぞれの見方を以下で確認しましょう。

水害・土砂災害のリスクの見方について①

■ 水害（洪水、内水氾濫）

ハザードマップには、想定最大規模降雨により洪水が発生した場合の最大の浸水の深さを表示しています。

浸水の深さの目安

- 5.0m以上
5.0m 2階の軒下までつかる程度
- 3.0～5.0m未満
3.0m 2階の床下までつかる程度
- 0.5～3.0m未満
0.5m 大人のひざまでつかる程度
- 0.5m未満
ひざ上まで浸水すると歩行が難しくなります。

洪水や内水氾濫によって浸水のおそれがある区域です。各シミュレーション条件において予想される最大の浸水の深さを色別に示しています。

浸水の深さが自宅の高さ以上、家屋倒壊等氾濫想定区域、浸水継続時間が長い区域のいずれかに該当する場合は、**早期の立退き避難が必要な区域**です。

家屋倒壊等氾濫想定区域（洪水のみ）

家屋等の倒壊・流失をもたらすような、堤防決壊を伴う激しい氾濫流や河岸侵食の発生が想定される区域。

氾濫流

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。

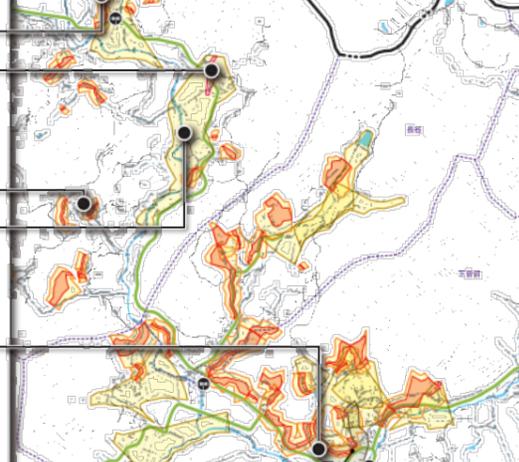
河岸侵食

地面が削られた家屋は建物ごと崩落するおそれがあります。



■ 土砂災害

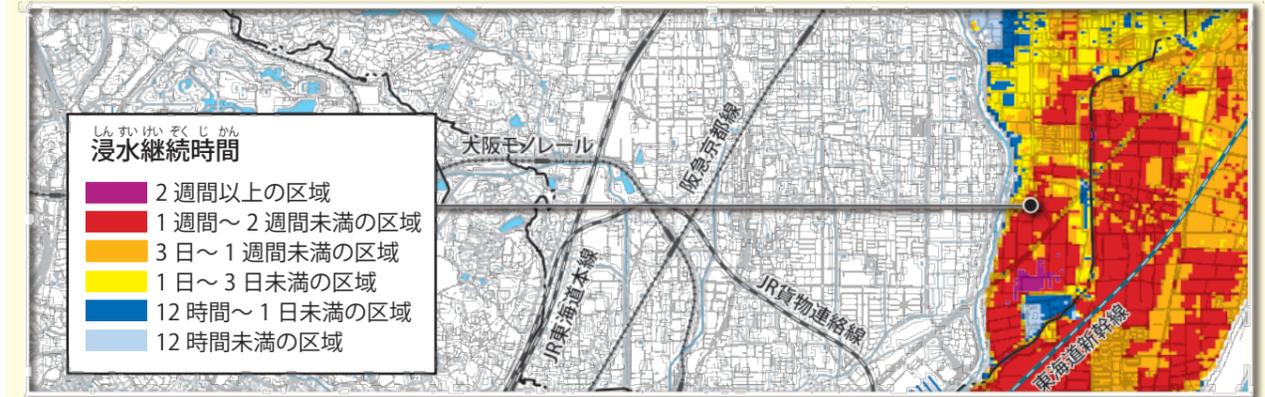
- 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
建物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域。
- 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域。
- 急傾斜地崩壊危険区域
がけ崩れが助長・誘発されるおそれがないように、行為の制限や対策を実施する区域。土砂災害警戒区域と同様に、土砂災害への注意が必要な区域。



水害・土砂災害のリスクの見方について②

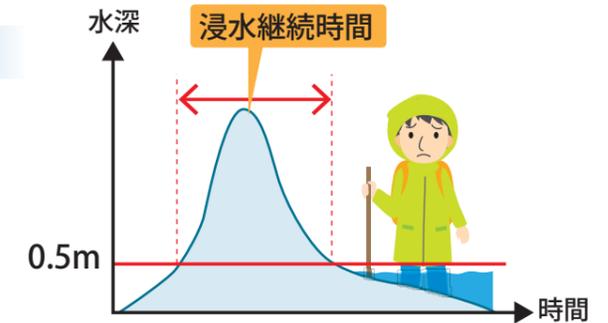
■ 浸水継続時間（洪水のみ）

洪水については、「浸水継続時間」を掲載しています。



浸水継続時間とは？

ある地点の浸水の深さが0.5m以上になってから0.5mを下回るまでの時間を示したものです。浸水継続時間が長い区域では、屋外への避難が困難となり孤立する可能性があります。



避難場所等の表示について

 <p>指定避難所 兼 指定緊急避難場所</p>	<p>災害が発生した場合、または発生のおそれがある場合に、その危険から逃れるための避難場所です。(!) 浸水(1階以上)、土砂災害のおそれのある施設です</p> <p>災害の種類ごとに茨木市が指定し、避難情報の発令対象地域ごとに開設します。</p> <p>台風時に開設する避難場所 洪水時に開設する避難場所 土砂災害時に開設する避難場所</p>			
 <p>指定避難所</p>	<p>災害の危険性があり、避難した住民等や、災害により自宅に戻れなくなった住民等が滞在し、避難生活をするための施設で、災害の種類にかかわらず茨木市が指定しています。</p>			
 <p>水位観測点</p>  <p>河川や水路の水位を計測している箇所です。</p>	 <p>河川監視カメラ</p>  <p>増水した河川を見に行くのは危険です。河川の状況は、ホームページに映像で公開されています。</p>	 <p>危険箇所（アンダーパス等）</p>  <p>地下道等で浸水する危険性のある箇所や、過去に浸水被害等が頻繁に発生した箇所です。</p>	 <p>屋外スピーカー</p>  <p>避難情報等の緊急情報を音声でお知らせするスピーカーが設置されている場所です。</p>	 <p>土のうステーション</p>  <p>土のうが入っていますので、浸水時における被害の軽減のためにお使いください。</p>